

その処方, 大丈夫ですか？

今さら聞けない 薬の常識

— 歯科処方の不安を安心に変える24講 —

著 中西康大 (東海大学医学部付属八王子病院
専門診療学系 口腔外科学)

A5変判・248頁・定価5,500円(税込)

- 月刊『日本歯科評論』の好評連載を持ち運びやすいハンディーサイズで書籍化。「念のために抗菌薬を出しておこう」「いつもの鎮痛薬で大丈夫だろう」そんな“なんとなくの処方”を見直す一冊。
- 第Ⅰ部では、歯科診療で遭遇するさまざまな場面ごとの処方のポイントをコンパクトに整理。抗菌薬、鎮痛薬、小児・妊婦への対応など、「何をどう使うか」がひと目でわかります。
- 第Ⅱ部では、「なぜそうするのか」を研修医と指導医の対話形式でわかりやすく解説。診療の判断力が自然に身に付きます(裏面の「内容紹介」をご覧ください)。

*「抗微生物薬適正使用の手引き 第4版 歯科編」の内容も反映



第6講

抗菌薬はどのようなときに使いますか？

⑥小児の使用で注意すべきこと

小児への処方では重要な体重？

指導医：小児に抗菌薬を処方するうえで、気をつけるべきポイントは何か？

研修医：体格が小さいので、量に気をつける必要があります。

指導医：そうです。体格が小さいということだけでなく、腎臓や肝臓がまだしっかり出来上がっていないということも考慮が必要です。一般的に中学2年生くらいになると、男女とも50kg前後の平均体重になり、大人と同じような体格になってきます。もっとも、体重が同程度であっても発達に伴う生理的変化の影響を受けるため、体格だけで判断してはいけません。

第Ⅱ部 今さら聞けない薬の常識

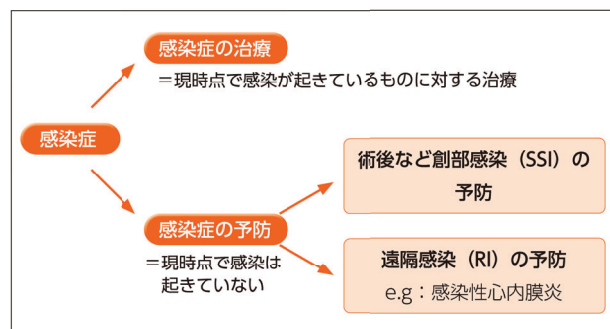


図6-1 歯科領域における感染症の考え方。

な状態で処方することは大変危険です。だいたいの用量で間違っていないかもしれませんが、抗菌薬に限らず、薬を処方する場合は、必ず添付文書の「確認」が必要です。また、ガイドラインがあるものに対しては、その確認も必要です。

研修医：添付文書やガイドラインは何となくしか見たことがありませんでした。

その処方，大丈夫ですか？ 今さら聞けない薬の常識

—歯科処方の不安を安心に変える24講—

内 容 紹 介

第Ⅰ部 その処方，大丈夫ですか？ 場面別 処方のポイント

第Ⅱ部 今さら聞けない薬の常識 歯科処方の不安を安心に変える24講

1. 抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬の処方

抗菌薬はどのようなときに使いますか？

- ①「感染の定義」から再考する
- ②抗菌薬不適切使用による耐性菌の死者数は「がん」による死者数を上回る
- ③抗菌薬だけに頼らない「感染症の治療」
- ④「感染症の治療」と「感染性心内膜炎（IE）予防」 抗菌薬処方のポイント
- ⑤「SSI 予防」のための抗菌薬 アモキシシリン3日分はOK？ それともNG？
- ⑥小児の使用で注意すべきこと
- ⑦妊婦・授乳婦の使用で注意すべきこと

抗真菌薬使用のポイント—真菌症の特徴から治療まで

口腔領域における主な抗ウイルス薬使用のポイント

抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬のまとめ

2. 鎮痛薬の処方

鎮痛薬はどのようなときに使いますか？

- ①「痛み」には種類がある
- ②「侵害受容性疼痛」に対する鎮痛薬の使い方（1）
- ③「侵害受容性疼痛」に対する鎮痛薬の使い方（2）
- ④「侵害受容性疼痛」に対する鎮痛薬の使い方（3）
- ⑤「侵害受容性疼痛」に対する鎮痛薬の使い方（4）
- ⑥「侵害受容性疼痛」に対する鎮痛薬の使い方（5）
- ⑦「神経障害性疼痛」「痛覚変調性疼痛」に対する鎮痛薬の使い方

3. その他の処方

口内炎はどのように治療していますか？①

口内炎はどのように治療していますか？②

漢方薬はどのように使っていますか？①

漢方薬はどのように使っていますか？②

胃薬と整腸薬はどのように使っていますか？

顎骨壊死に対する処方薬の使い方

歯性上顎洞炎に対する処方薬の使い方

A5 変判・248 頁・定価 5,500 円(税込)